

【小学校2年生】

自発性・社会力の芽生えの時期は、子供の答えを待とう！

小学校2年生は、学校生活も1年経ち、勉強では、九九・かけ算を学ぶなど、生きていくための基礎学力をつける時期です。また、学校生活に慣れてきて、新しいコミュニティや経験への興味関心が芽生える時期でもあります。家族以外の人との関わりが増え、自発的な行動に目覚め始めます。その自発的行動を育むことで「社会力」を身に付ける時期でもあります。

子供が「社会力」を身につけるチャンスは、家族以外の大人と話す機会などですが、日常生活の中のいたるところにあります。

例えば、お子さんと一緒に外出して、知り合いに偶然会った時、子供が質問されているのに、子供が答える前にお母さん・お父さんが答えていませんか？知り合いの方が「何年生になったの？」とお子さんに聞いているのに、親が間髪を入れずに「2年生です。」と答えていませんか？これでは子供は、知らない人にきちんと話をする機会、それができて自信をつけるチャンスを逃してしまっているのです。親の知り合いでも子供が初めて会う方であれば、すぐに答えられずもじもじすることは少なくありません。そんな時は、「何年生になったのか、おばさんに教えてあげてね」などと促し、子供が自分で答えるようにアシストしましょう。

また、レストラン食事をする時も、家族で何を食べるかメニューを見ながら決めたりすることがありますね、その時、子供は自分なりに注文を考えています。しかし、せっかく子供が考えているのに注文するメニューを親が一方向的に決めてしまったり、親がまとめて注文していませんか？この場面は、自分で決めたこと(メニュー)を自分で他人(この場合は店員ですね)に伝えるよい機会なのです。

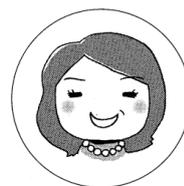
子供の社会力は、小さい頃から家族以外の大人にいかに関わったかで成長度合いが決まると言われています。核家族化の進む現代は、家族以外の人とのふれあいは、昭和の頃から比べると希薄になっています。知り合いとの会話やレストランでの注文など、他者である大人との関わるチャンスです。この機会は逃さずに、お子様の「回答を待つ」。そして、子どもが「社会力」を身につけるチャンスを作ってみませんか。

※参考書籍 門脇 厚司(著)「子どもの社会力」(岩波新書)

執筆：認定特定非営利活動法人育て上げネット 「結」相談員 森 裕子・墓田 薫

「ニート・ひきこもりの子をもつ親の会『結』」
(運営：認定特定非営利活動法人育て上げネット)

若者の「働く」と「働き続ける」を実現するために、若年無業者就労基礎訓練プログラム「ジョブトレ」など、多方面からの支援を行っている「認定特定非営利活動法人育て上げネット」の活動の一つで、親をサポートするための会。1か月ごとの定期相談やすぐにも実施できる「接し方・伝え方」ワークショップ、親同士の気軽な茶話会などを提供している。



墓田さん



森さん

※執筆者の肩書等は、令和2年(2020年)3月現在のものです。